

Goldschmidt 国際会議 2017 参加報告

相関基礎科学系修士課程 2 年 桜庭 真依子 (角野研究室)

「修士・博士課程学生のための国際研究集会渡航助成」の支援を受け、Goldschmidt 国際会議 2017 及びこれに付随するワークショップ DINGUE 5 (Development In Noble Gas Understanding and Expertise) に参加しました。Goldschmidt 国際会議は、地球・宇宙化学の分野で世界最大規模の総合的な国際研究集会であり、地球内部・地球表層の組成と物質循環、気候変動、環境汚染、生物地球化学、宇宙物質と地球の形成など様々な分野の研究者が世界各地から毎年参加しています。本年度はフランス、パリにおいて 8 月 13 日～18 日の 5 日間開催されました。また本国際会議に付随するワークショップ DINGUE 5 は、世界各地の希ガス地球・宇宙化学を専門としている研究者たちが 2 日間に渡り研究発表と討論を行うもので、本年度は 8 月 12 日～13 日の 2 日間に渡りパリ地球物理研究所で行われました。

私は「Groundwater flow system in Fukushima Prefecture, Japan, traced by tritium- ^3He and ^{129}I dating methods」という題目で国際会議及びワークショップ共にポスター発表を行いました。トリチウムを用いた地下水の年代測定法と放射性核種の一つであるヨウ素 129 を用いて、地下の流動系を把握し、福島県の地下水について放射性物質による汚染状況を評価するという内容で、様々な国の方から関心を持っていただくことができました。議論の際は今後の研究への指針となる貴重な意見も得られ、学会・ワークショップ全体を通じて非常に有意義な時間を過ごすことができました。今後はこの経験を活かして、実験や修士論文の執筆により一層邁進していきたいと思えます。

